

中國出土資料學會  
平成25年度大会

日時：平成26年3月8日（土）

平成25年度大会

受付開始 12：30～

研究報告 13：00～17：00

総 会 17：00～18：00

場所：日本女子大学百年館低層棟207教室

（東京都文京区目白台2-8-1）

会場へのアクセス：JR山手線「目白」下車徒歩15分

目白駅前より直通「日本女子大」行スクールバス有り

または地下鉄有楽町線「護国寺」下車徒歩10分

報告Ⅰ 石原 遼平（東京大学人文社会系研究科博士課程）

発表題目：里耶秦簡にみる刑徒労役

発表概要： 里耶秦簡には秦遷陵縣の各部署が刑徒労役を縣廷に報告した「作徒簿」をはじめ、刑徒労役の管理に使われた行政文書が見られる。これらは労役刑徒の実際の使役状況を伝える貴重な史料であり、すでに研究者の注目を集めている。

本報告は現時点で公表されている里耶秦簡の刑徒関係簡を収集し、秦の縣における刑徒労役のあり方を探る。

前半部分では作徒簿から刑徒労働の管理・運用の手續を明らかにする。ここから縣廷による司空・倉を軸とした刑徒労働力の分配と日・月・年単位の労役管理があったことが知られる。後半部分では作徒簿に見られる労役刑徒の労役内容を分析し、刑徒身分、年齢、性別によって従事する労役に一定の傾向があることを示す。

里耶秦簡からは実用的な労働力として労役刑徒を効率的に使役することが重視された様子が垣間見られる。これは中国古代の刑罰の性質を理解する上で重要な一側面であろう。

報告Ⅱ 金城 未来（大阪大学大学院文学研究科助教）

発表題目：清華簡『周公之琴舞』考

発表概要： 2008年、清華大学が入手した約2500枚の竹簡群には、経書や史書、術数関連書等、多くの文献が含まれていた。その中でも、古代の「詩」や「楽」の観点から注目を集めている文献に『周公之琴舞』（『清華大学蔵戦国竹簡（三）』、清華大学出土文献研究と保護中心編・李学勤主編、中西書局、2012年12月 所収）がある。

『周公之琴舞』には、初めに周公旦の教誡的内容の詩が配され、続いて成王が作成したとされる教誡的内容の1組9篇の詩が記述されている。成王の詩の第1篇は、今本『毛詩』周頌・敬之に類似する内容と考えられ、本篇と『毛詩』との関連性が指摘されている。

本発表では、『毛詩』や『尚書』等の伝世文献との比較を通して、『周公之琴舞』の内容を確認すると同時に、本篇に付けられた篇題や小序、本篇の構造及び注目すべき語句等について検討し、その特質を明らかにすることを目指す。

報告Ⅲ 施 謝捷（復旦大學出土文獻與古文字研究中心教授）

通訳：陶安 あんど（東京外國語大學アジア・アフリカ言語文化研究所准教授）

発表題目：《簡牘人名（雙名）釋讀札記》提要

発表概要： 近年刊佈の戰國秦漢簡牘文獻中出現了大量的人名資料，頗有與戰國秦漢璽印及典籍中所見人名相合者，反映了當時人們取名的共通習慣。本文擬在充分佔有戰國秦漢簡牘和璽印封泥資料的基礎上，通過對戰國秦漢簡牘和璽印封泥及相關史籍相互參證，充分吸收前脩時賢的相關研究成果，利用古文字學、古文獻學的整理研究方法，對過去被闕釋、誤釋或諸釋歧異的人名，根據璽印或相關史籍提供的人名資料予以補釋或辨正，對罕見之雙名則試考其取意原由，同時利用簡牘所載人名資料對璽印中所見的某些人名作出合理的釋讀。今擇其中 10 例進行討論，細目如下：

- |      |      |
|------|------|
| 一、□安 | 六、彼死 |
| 二、唼耳 | 七、氏夫 |
| 三、廣邦 | 八、渠良 |
| 四、筍得 | 九、充郎 |
| 五、囚吾 | 十、不識 |

☆参加費（資料代）500円

☆非会員の来聴を歓迎します

☆大会終了の後、懇親会を行う予定です。ふるってご参加ください。

連絡先（例会委員長）

〒400-0035

山梨県甲府市飯田5-1-1-1

山梨県立大学国際政策学部

名和研究室

Tel 055-224-5276（直通）

Fax 055-228-6819

E-mail :

nawa@yamanashi-ken.ac.jp

